２月２日

2023 年度

国　　語

最初に、以下の注意事項をよく読んでください。

1．問題冊子は監督者の指示があるまでは開いてはいけません。

2．監督者の指示にしたがって、解答用紙に**受験番号**と**氏名**を記入してください。問題冊子は**受験番号**のみを記入してください。

3．試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。

4．受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。

5．問題冊子および解答用紙は持ち帰らないでください。

6．漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

受験番号	

＊ 解答に字数制限がある場合は、句読点なども字数として数えます。

【一】 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 ①～⑥の――線部のカタカナを漢字に直しなさい。

① ドヒョウに上がる。　② 野球部のシュショウになる。　③ お正月の神社は人でコンザツしている。

④ ミッセツな関係。　⑤ 寺をタズねる。　⑥ 相手の動きをサッチする。

問二 次の中から意味が似ている言葉を二つ選び、記号で答えなさい。

ア、類義　イ、必要　ウ、分類　エ、成分　オ、要素

問三 次の三つの漢字は、ある共通する部首をつけると別の漢字を作ることができる。その部首名をひらがなで答えなさい。

楽・早・者

問四 次の四字熟語の漢字のまちがいを探し、例にならって正しく書き直しなさい。

例　意心伝心〔意→以〕

心器一転

問五 次のことばは慣用句である。（　）に入る漢字の総画数を漢数字で答えなさい。

（　　）は急げ

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

わたしが、怜王を引きとめておく係になった。

「起立、礼」

日直が言って、みんながたがたと、リュックを背負ったりしているあいだ、わたしは怜王の席に行った。

「ちょっと話があるんだ」

「なに？」

怜王は、半目でにらむようにわたしを見た。

「それは今は言えない。わたしだけのことじゃないから」

わたしは冷たく言いはなって、怜王のうでをつかんだ。

「なにするんだよ」

「自分の心に聞けば？　悪いと思ってるでしょ」

怜王の目がおびえた猫みたいになった。でもそれは、ほんの一瞬だけだった。

「なんのこと？」

「わかってるはず」

そう言って、反対側から怜王のうでをつかんだのは、紬だった。となりの組なのに、帰りの会が終わったとたん、急いでかけつけてきたのだ。同じような子がほかにも何人かいて、怜王をとりかこむような形になった。

「みんなをばかにして。とにかく、校庭まで来て」

「やだよ。なんでそんなことしなきゃならないんだよ」

怜王はわたしと紬の手を振りはらい、すり抜けようとしたが、ほかの女子たちがそれをはばんだ。

「ねえねえ、どうしたの？」
クラスの女子たちがまわりをとりかこむ。いくら大人みたいに背の高い怜王でも、抜けられなくなってしまった。
「校庭に行こう、校庭に」

校庭の真ん中には、もう人だかりができていた。
女子ばっかりだ。紬は、怜王をむりやり、その真ん中に押しこんだ。
なにしてるの、と男子が何人も寄ってきたが、だめだめ、女子の話だからあっち行って、といちばん外側の子たちが、せきとめている。
「どうしてあんなことしたのよ」
紬が怜王を見あげて、くってかかるように言った。まるで猫にかみつくネズミみたいだ。
「あんな……こと……って？」
怜王は、①ちょっとくちびるをふるわせながらも、しらばっくれた。
「わたしに告ったでしょ」
わたしにも、わたしにも、と何人かの女子が口々に言った。
「好きでもないのに、なんでそんなことするの？」
怜王は、もう言いのがれできないと思ったか、ため息をついて下を向いた。
「人の心をおもちゃにしたら、いけないでしょ」
紬の声に、誰(だれ)かが賛成する。
「そうよ。バレンタインにもらったチョコレート、放課後、サッカー部のみんなで分けて食べたって聞いたよ。ひどい。ひどすぎる」
「ほんと？　あんまりだ。わたし、手づくりチョコ、いっしょうけんめいつくったのに。それを、ほかの子が食べたっていう

の？」

「［　1　］のおこづかい、つかったのに」

怜王はだまって下を向いている。

「そんなひどいやつだって、思わなかったよ」

「チョコレート返して」

声がつづくが、怜王はぴくりとも動かない。

みんなより頭一つ分高いから、ととのった横顔がよく見える。こめかみに、汗がつーっとたれた。そんなに暑い日じゃない。きっと、緊張しているんだろう。

②ちょっとかわいそうに思えてきた。

なにかひとこと《　X　》を出そうか、でも、なんといっても、紬もわたしもいたずらの被害者だし、同情する必要はないかも、と迷っていたとき、みんなのあいだをかきわけて前に出てきた子がいた。

美亜だ。

ちょっと変わった子で、いつも自分の席で本を読んでいる。体育はいつも見学だ。特に体が悪いわけではなく、家の考えが、やりたくないことを無理してまでやる必要はない、というものらしくて、毎回、連絡帳に、めまいがしますのでとか、偏頭痛ですのでとか、いろいろ理由をつけて、体育を休ませてくださいと書いてあるらしい。

「たくさんで、たった一人を一方的に責めるのは、いじめじゃない？」

美亜は、③紬にくってかかった。

「怜王にだって、言い分はあるはず。それを言わせてあげなきゃ、公平じゃないと思う」

「だって、怜王はだまってるじゃない」

「こんなにかこまれてしまったら、おそろしくて、なにも言えないでしょ」

「だったら、怜王に代わって、美亜、あなたが言えば？」

紬は、挑戦するように、胸を張った。

「いい？　怜王」

美亜は、怜王の顔をうかがった。怜王は眉をひそめて下を向き、銅像みたいに動かない。

美亜は、［2］ふふっと笑った。

「保育園のときから、怜王は、チョコレートはきらいで、ひとかけらも食べたことないの。だれもそんなこと知らないでしょ。あげれば喜ぶって、思いこんでるんでしょ」

美亜は怜王と幼なじみだったのか、知らなかった。あまり口をきいているところを、見たことがなかったから。

「ね、なんか変じゃない？　つまり、怜王が食べるかどうかなんて、本当はどうでもいいんでしょ。みんな怜王に好きだって言ってもらうことを、賞でも取ることのように思ってるんじゃないの？　おたがい張りあってるだけでしょ」

「それと、今度のことと、なんの関係があるのよ？」

「そうだよ。バレンタインの話とはちがうよ。人の気持ちをおもちゃにするのはよくないでしょ、って言ってるんだよ」

「どうせ、自分だけ怜王のこと知ってるって、いばりたいだけなんだよ」

今度は、美亜が責められている。

ああ、さっき口を出さなくてよかった、④とわたしはちょっとほっとした。美亜みたいに、思ったことを口にすれば、そのとたん、自分に刃が向かってくる。

でも、美亜は、そんなことはいっこうに気にしていないようすで、言いかえしている。

「バレンタインだって、ゲームなんだから、同じことでしょ。男子たちのほうだって、告白ゲームしたってことよ」

その一言で、女子は、ハチの巣をつついたみたいな大さわぎになった。

「そんなことないよ。バレンタインはゲームなんかじゃない。本気だから」

⑤「いたずらで笑うのは、ちがうから」

「人をからかって、いいわけがないでしょ」

ほんとだ。あのあと、わたしだって一生懸命考えた。赤くなった。恥ずかしかった。あれがみんなうそだったというのなら、やっぱり腹が立つ。

紬は、［3］高い声で、目をつりあげてさけんでいた。

「好きだって言うか言わないかは、なにより自分で決めるべきだよ。バレンタインでチョコをあげるかどうするかだったら、自分で決めたことになる。けど、告白ゲームでだまされて好きだって言うのは、自分で決めたって言えない」

そのときだ。

今まで［4］動かなかった怜王が、動いた。

「……ご、ごめん」

紬に向かって、ぺこりと頭をさげていた。

「自分で決めるってことが、そんなだいじなことだとは、考えもしなかった……ごめん、悪かった。サッカー部のみんなで、いたずらしようって相談して、お金出しあって、花屋さん行って、バラの花買って……そしたらみんなに、怜王じゃないとうまくいかないだろうから、おまえ行けって言われて……」

あたりが、またしんとした。

「わ、わかった……いい。もういい」

声を出したのは、紬だった。

なぜか、口をへの字にまげて、⑥今にも泣きそうな顔をしている。

どうして泣くんだろう？　自分の主張が通ったというのに。

それに、気の強い紬は、今まで泣いたことがない。幼稚園のときだって。

「ゆめか。帰ろう」

紬は、わたしのうでを取って、女子の輪を抜けだそうとした。

だが、ほかの女子たちが、紬を押しとどめる。

「だめだよ。ぜーんぜん、よくない。あたしは許せないから。ごめんって言えばいいってもんじゃない。あたしたちの心の傷をどうしてくれるの」

「そうだよ、そうだよ」

「そもそも、紬があたしたちを集めたんでしょ。逃げるの？」

みんなが、うんうんとうなずいていた。

「いや、もう、いいっていったら、いいんだから。いいんだから」

紬の鼻は真っ赤だ。

次の瞬間には、わっと声をあげて泣いてしまうんだろうな、と思った。こんな紬、初めて見た。

いたずらだってわかっていたのに？　それでも、怜王の口からはっきりと聞いて、ショックだったのだろうか。紬は、怜王が自分のことを好きでいてくれたと、少しぐらいは、信じていたかったのかも。そう思うと、紬がかわいそうだ。

でもここで口を開いたら、私に刃が向かってくるだろう。わたしは美亜みたいに、非難されて平気でいられるたちではない。

しかし、よくわからないが、ここで紬を泣かせちゃいけないと思った。このさわぎを終わらせるために、だれかが、なにか言わなきゃならない。

わたしは、なるべく遠くまでとどくような声を出そうと、大きく息を吸った。紬とちがって、たくさんの子に呼びかけるなんて、今までやったことがなかった。どきどきして、出だしの声がちょっとうらがえった。

「ねえ、みんな。もう、これでおしまいにしようよ。ね」

みんなの目が、さっとわたしに注がれた。

どうしよう、なんて言おう。その先は考えていなかった。**5**頭もまわらない。

わたしはしかたなく、思いついたことをしゃべることにした。みんなを説得できるかどうか、わからなかった。

「わたしたち、同じ学年なんだから……こ、こんなふうに男子と女子が、けんかしていいってわけじゃないし……」

まだしんとしている。どうしよう。冷や汗が、わきの下を流れた。

「そ、それに、一人だけ悪いわけじゃないし。ほかの男子も、あやまってよ」
そのとき、女子の外側でうろうろしながら、心配そうにこちらをうかがっていたサッカー部の子たちが、さっと動いた。
試合の終わりのときのように一列にならんだ。
「ごめん！」
大きな声だった。
空気が変わった。やわらいだ。それがわかって、⑦わたしはほっと息をついた。
「悪かった、いたずらして」
「許してください」
男子たちは、いっせいに頭をさげた。

（日本児童文学者協会・編『その一言から生まれる物語　えっ、ウソみたい？』から
森川成美「男子ＶＳ女子」〈偕成社〉より）

問一　1 ～ 5 に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。（ただし、同じものは使えない。）

ア、とっさに　　イ、いっさい　　ウ、ひときわ　　エ、不敵に　　オ、なけなし　　カ、ついに

問二　═══線部X「《　　》を出そう」とあるが、「力を貸す」という意味の慣用句になるように空らんに三字で答えなさい。

問三 ═線部Y「無理」と同じ成り立ちの熟語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、非常　　イ、点火　　ウ、有無　　エ、暗示

問四 ――線部①「ちょっとくちびるをふるわせながらも、しらばっくれた」とあるが、この時の怜王のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、多くの女子にかこまれたことで怖(こわ)くなっていたが、ここで逃げてはならないと覚悟(かくご)を決めている。
2、「あんなこと」と言われても全く心当たりがないので、これから何か起こるのかと不安になっている。
3、自分のしたことに心当たりがあったが、まわりの女子の雰囲気(ふんいき)が怖くて知らないふりをしている。
4、紬と自分だけの問題なのにたくさんの女子に知られてしまい、かくし通すべきかどうか迷っている。

問五 ――線部②「ちょっとかわいそうに思えてきた」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、まだ怜王が悪いと決まったわけではないのに、怜王を責めるのは良くないと思ったから。
2、怜王が悪いということが周囲に分かってしまい、恥ずかしそうだと思ったから。
3、怜王一人が悪いわけではないのに、怜王は一言も反論せずにだまって友達をかばっているから。
4、いくら怜王が悪いとはいえ、大勢の女子にかこまれていっせいに責められるのは理不尽(りふじん)だと思ったから。

問六　――線部③「紬にくってかかった」とあるが、なぜそのような行動をとったのか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、怜王の行動にも何かしらの理由があるはずなのに、それを聞かないのは不公平だと思ったから。
2、怜王がだまっているのをよいことに攻撃（こうげき）を続ける女子たちを止めないと、いじめに発展すると思ったから。
3、本当のことを言えずに困っている怜王の代わりに、自分が責められようと思ったから。
4、だまっている怜王に対していらつきながらも、何も言えずにいる怜王がかわいそうだと思ったから。

問七　――線部④「わたしはちょっとほっとした」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、美亜のように思ったことを口に出して、自分が周りから攻撃されずにすんだから。
2、美亜も怜王に好意をもっていると思っていたが、かばった理由がいばりたいだけとわかったから。
3、美亜はわたしが何も言わずにただ見ているだけなのを、気にしないでいてくれるから。
4、美亜は周りに責められていても、まったく動じずに積極的に言い返しているから。

問八　――線部⑤「いたずら」とあるが、どんなことを指しているのか。二十字以内で答えなさい。

問九　――線部⑥「今にも泣きそうな顔をしている」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、自分が言い出したことによって、怜王が想像以上に責められて申し訳ないと思ったから。
2、怜王からの告白が本心からではなく、友人とふざけてやったことだとわかって傷ついたから。
3、自分の主張が通って怜王は謝ってくれたが、言い訳が多くて反省していると信じられなかったから。
4、怜王がいろいろな女子に告白するような男子だと知って、心の底から情けなく思ったから。

問十　――線部⑦「わたしはほっと息をついた」とあるが、このときの「わたし」のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、同じ学年の男子と女子のケンカが終わり、やっと仲良くできることに胸を弾(はず)ませている。
2、サッカー部の男子たちが、悪いことをしたことに気がついて謝罪してくれた姿に胸を打たれている。
3、みんなを納得させる自信はなかったが、結果的に場が丸く収まったので胸をなで下ろしている。
4、誰か一人に責任を押しつけて、その人を責めるという流れが止まって胸がすく思いがしている。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一 個性を磨くのは義務ではない

日本ではよく、「若者はもっと個性を発揮すべきだ」とか、「個性を磨くべきだ」などと言われます。けれど私は、①そういう言葉にはあまり意味がないと思っています。

［ 1 ］、日本では「個性」という言葉が主に人の外観に関して使われることにも、②私は違和感を持っています。たとえば、「個性的なファッション、個性的なヘアスタイル」は、「人がアッと驚くような奇抜なスタイル」であることが多いでしょう。あるいは、他の誰も持っていないような特殊なスキル[注1]をもつことが個性的であることの条件のように受け取られていますね。

このように考えると、「個性＝人より目立つこと」と、多くの人が錯覚しているのではないかと思います。

でも、（ A ）的なことを言ってしまえば、この世に生まれた人間は一人残らず全員、それぞれの個性を持っています。だから、誰かに「磨きなさい」と命令されて、義務のように磨く必要などないのです。

あなたが生まれ持った個性は、明らかにあなただけのものです。世界中に、あなたと同じ個性を持つ人など誰一人としていないのですから、「他の人はどうかな？」とキョロキョロすることは不必要だし、他人の真似をする必要もありません。真似しようとしても真似できないのが、個性というものなのです。

あなた自身が「楽しい、面白い、不思議だ、ワクワクする、どきどきする」と感じ、心から求めているものを優先すれば、それでいいのです。「磨く」とか「発揮する」などと意識しなくても、自分が本当に好きなもの、興味があることに気持ちが向かっていけば、自分の世界がどんどん広がっていく。それが本当の意味で「個性を磨く」ということです。

いちばん良くないのは、親や先生の顔色をうかがったり、友達の反応を気にしたり、世間の思惑に振り回されたりしながら、「個性を磨かなきゃいけない」と無理をすることです。

そういうネガティブなサイクルに入らないよう、気をつけてください。

二　アイデンティティの確立は難しいことではない

1　この言葉は、心理学では「自我同一性」と訳されます。一般的な言い方をすれば、「自分のことを、他の誰でもない自分だと認識すること」という意味で、「自己認識」とか「独自性」などと言われることもあります。

2　みなさんは、「アイデンティティ（identity）」という言葉をご存知ですね？　英和辞典には、「同一性、身元、正体」などと出ていると思います。

3　「自分と完全に同じ人間はいない。自分は、この世にたった一人の存在だ」と認識する時の基礎になるのが、アイデンティティという概念です。

4　たとえば、クラスの中にあなたと同姓同名の人がいるとします。当然のことですが、その人とあなたとは別々の人格を持つ別々の人間です。同姓同名の人が何人いようとも、あなたという「個」は一人しかいません。

これまでに私が何度も述べてきた「自分の宇宙を持って生きる」ということは、言いかえれば、「アイデンティティを見極め、確立する」ということです。

アイデンティティの確立というと、すごくハードルが高いことのように思うかもしれませんが、決して難しいことではありません。それは、「自分の頭でものを考えることが、いつでも、どこででもできる」ということなのです。

［ 2 ］、今日あなたが学校帰りに飲んだドリンクも、図書館で借りてきた小説も、自分で（　B　）して選んだのだから、あなたのアイデンティティの一部です。

休日の過ごし方、家族との関わり合い方、友人との付き合い方なども、③すべて自分のアイデンティティを形成する要素です。

そう考えれば、アイデンティティの見極めや確立が特別に難しいことではないとわかるでしょう。

ヨーロッパの教育現場では、「個性を発揮しろ」とか「個性を磨け」とかといって発破をかけることはあまりありません。哲学の授業でも、国語（英語やフランス語などその国の母国語）の授業でも、あるいは歴史の授業でも、先生が生徒に期待するのは、それぞれの考え方であり意見です。あまりにも突拍子もない意見や考え方については、先生は修正しますが、自分の意見や考えを述べることができない生徒には高い評価はつきません。一人の生徒の意見や考え方に対して、別の生徒からあえて反対

の意見や考え方を表明させて、両者の間でディベートさせることもあります。こうして小さい時から鍛えられたヨーロッパ人達にとっての課題は、チームワークをとることが不得手ということです。日本とはあべこべという感じです。

三 競争は進歩の原動力、「自分らしさ」を発揮するチャンス

私が小学生の頃の同級生に、足の速いY君という子がいました。

Y君は毎年、運動会の一〇〇メートル競走で一等になり、賞品のノートや鉛筆を山ほどもらっていました。私も足は速い方でしたが、このY君にはかなわなくて、運動会のたびに、「いいなあ、すごいなあ」と思っていました。

賞品のノートや鉛筆がほしかったわけでも、自分より足の速いY君にジェラシー[注2]を感じていたわけでもありません。俊足のY君のことを心から尊敬していたのです。

このように競争をとおして相手に対する尊敬の念をはぐくむことは、とても大事なことだと思うのですが、最近の日本では、「子供達に競争させるのはかわいそう」「勝ち負けにこだわるのは良くない」「順位によって差をつけるのは平等主義に反する」といった理由から、運動会で一位、二位、三位の表彰をやらなくなった学校もあるようです。

3、④競争は本当にいけないことでしょうか。

日本人なら誰でも、オリンピックで日本の選手が優勝すれば大喜びし、サッカーのワールドカップで日本チームが敗退すれば悔しがるでしょう。そうやって競争を楽しんでいるわけです。それなのに、学校の運動会に関しては「平等主義に反する」という理由で競争をさせないというのは、どこかおかしいと思いませんか?

私は、「競争のないところに進歩はない」と考えています。私の言う競争とは、足の引っ張り合いやルール違反のない、フェアな競争のことです。

「切磋琢磨(仲間同士が互いに励ましあい、競い合って向上をはかること)」という言葉があるとおり、フェアな競争は進歩の原動力です。このことは勉強やスポーツだけでなく、芸術、科学技術、ビジネス、産業、経済についても同じようにあてはまります。

そもそも、平等主義がそんなに素晴らしいのなら、何よりも先に偏差値重視の受験戦争をなくすべきでしょう。仮に「勉強

以外の競争は悪」なのだとしたら、スポーツの試合も、音楽や書道や絵のコンクールも、弁論大会も、すべてその存在（　C　）すらなくなってしまいます。

それに、学校生活から勉強以外の競争がなくなれば、ほとんどの生徒は自分に自信を持つきっかけを失ってしまうでしょう。たとえば、あなたのまわりには、絵がクロウトはだしの子、音感が抜群な子、スポーツ万能な子、大人もかなわないほど字が上手な子など、何かに秀でた友達がいると思います。あなた自身がそうかもしれません。

そういう人達は、たとえ勉強ができなくても、体育祭で英雄に変身したり、美術の授業でスターになったりすることで、「自分には才能が備わっている」という実感を持つことができます。そして、そういった評価を受けることによって自信をつけるのです。

［4］、努力して人から認められる喜びを味わえるだけでなく、「もうちょっと勉強も頑張ってみようかな」と、苦手分野を克服しようとする意欲を高めていくこともできるのです。

他の人と比べて、絵がうまい、音感がいい、スポーツ万能、字が上手……といったことは、どれも一つの才能であり、その人の個性です。個性に優劣はありませんが、一〇人の人にかけっこさせれば、必ず一位から一〇位までの順位はつきますし、一〇人の人に絵を描かせれば、それぞれの作品にはおのずと違いが出てきます。その違いが個性というものです。

日本では「子供の個性を大事にすべきだ」としきりに言われますが、そのわりには、個性の違いがはっきり出るようなことを避ける傾向があります。けれどその一方で、偏差値や学歴で人に差をつけている。これこそ矛盾ではありませんか。

こんな状態で「個性を磨きなさい」と言われても、たぶんみなさんは納得できないでしょう。日本の大人達は、「個性の尊重とはどういうことか」を真剣に考えなければいけないと思います。

（今北純一『自分力を高める』〈岩波ジュニア新書〉より）

注1・スキル……技術や高度な能力。

注2・ジェラシー……相手をねたましく思う気持ち。嫉妬心。

問一 1 ～ 4 に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。（ただし、同じものは使えない。）

ア、また　　イ、もし　　ウ、あるいは　　エ、こうして　　オ、だから

問二 （ A ）～（ C ）に入る二字のことばを次の漢字を組み合わせてそれぞれ作りなさい。

力　断　能　義　本　決　体　意　根　具

問三 ═線部X・Yの意味として、適切なものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

X「発破をかける」

ア、追いつめる
イ、負担をおわせる
ウ、気合をいれる
エ、投げかける

Y「おのずと」

ア、まさに
イ、わざと
ウ、急に
エ、自然と

問四 本文には次の一文がぬけている。どこに入れたらよいか、この直後にくる五字をぬき出しなさい。

そのうちに自分の軸足をどこに置いていいかわからなくなり、自分力が失われ、結局は自分で自分の個性をつぶしてしまうことになりかねません。

問五 ――線部①「そういう言葉にはあまり意味がない」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、個性は真似をしようとしてもできないものなので、それを磨くことは大変難しいから。
2、個性を磨くというと、若い人は何かと人を驚かせるようなことをし始めてしまうから。
3、個性は人より目立つことではなく、むしろ人より目立たないようにするほうが良いから。
4、個性を磨くためにしなければならない具体的な行動が、決まっているわけではないから。

問六 ――線部②「私は違和感を持っています」とあるが、この理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、個性は持っていることに意味があるので、表現しようとするのはおかしいから。
2、個性は自分にしかわからないものなので、人と比べるのはおかしいから。
3、個性は誰でも持っているものなので、外観に限定するのはおかしいから。
4、個性は自然と磨かれるものなので、意識して磨くのはおかしいから。

問七 ……線で囲まれた部分の1～4を正しい順序に並べかえ、番号で答えなさい。

問八　――線部③「すべて自分のアイデンティティを形成する要素」とあるが、この「要素」と言えるものとして、適切でないものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、家族旅行が計画されていたが、試験勉強が大事なので家で留守番をすることにした。
2、母親の望む進路があったので、そちらを優先して受験をすることにした。
3、どうしても食べたいものがあったので、友人と別れて単独行動をすることにした。
4、電車での行き方がわかりにくかったが、路線図で調べるなどして出発することにした。

問九　――線部④「競争は本当にいけないことでしょうか」とあるが、筆者が競争を必要と考える理由を、本文中のことばを用いて二十字以上二十五字以内で答えなさい。

問十　段落［二］の段落［一］に対する関係を説明したものとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、［一］の「個性はだれでも持っている」という考え方を、心理学の立場から補強している。
2、［一］の「個性を磨くという言葉に意味はない」と述べたことに対立する意見を述べている。
3、［一］で「個性はだれでも持っている」と述べたことをうけて、別の見方の可能性を提案している。
4、［一］で話題にした「個性」よりも「アイデンティティ」の方が重要であると、話題を変えている。

問十一　次の会話を読んで、後の問いに答えなさい。

桜さん「私たちにとってのアイデンティティって何なのかしら?」

林さん「難しい質問だよね。『得意なこと』があれば、それが個性であることはわかるけど…アイデンティティ＝個性という考え方とも違うような気がする」

桜さん「『得意なこと』がなければ、アイデンティティがないということなのかな?」

林さん「それは違うと思うよ。アイデンティティとは、《　　X　　》」

桜さん「そうだよね、それを忘れてはいけないね」

林さん「『アイデンティティ』と『個性』は切っても切り離せないものだけど、『個性を磨く』ということが、アイデンティティを確立することには、やっぱりつながる気がしないなあ」

桜さん「そうそう、そもそも『個性を磨く』って何をすればいいの?　競い合って相手より上回るような努力をすればいいのかな?」

林さん「誰かと競う必要はないんじゃないかな。大事なのは『個性の尊重』だよね」

桜さん「そうだね、『個性に優劣はない』ということがキーワードじゃないかな」

（一）《　X　》に当てはまることばとして、適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、自分は自分しかいないと考え、他人を信じずに生きることだよ

2、自分の信念を曲げずに、最後まで貫き通すことだよ

3、自分の頭で考えて、他人に間違っているといわれても行動し続けることだよ

4、自分は自分、同じ人間は一人もいないと考えることだよ

（二）　――線部「個性の尊重」とは何か。二人の会話と本文を参考にして、四十字以内で答えなさい。

国語 解答用紙

受験番号
氏　名

得　点

【一】

問一 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

問二

問三

問四 ↓

問五

画

【二】

問一 1 2 3 4 5

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

【三】

問一 1 2 3 4

問二 A B C

問三 X Y

問四

問五

問六

問七 ↓ ↓ ↓

問八

問九

問十

問十一（一）

問十一（二）

国語２月２日